



米国食肉輸出連合会は、日米の食肉業界の飛躍に貢献できるよう努力しております。

Trader's Be&Po

米国食肉輸出連合会 (USMEF) <http://www.americanmeat.jp>

Volume 009 July 26, 2004

Trader's Be&Poはメールでもお届けします。ご希望の方は、下記にご記入の上、FAX返送してください。

お名前 様 メールアドレス @

FAX番号 03-5542-2912

「Trader's Be&Po」はインターネットでもご覧いただけます。
ご希望の方は、下記URLからダウンロードしてください。
<http://www.americanmeat.jp/publications/tnf.html>

★「Be&Po」とは、Beef(牛肉)とPork(豚肉)を合わせた言葉で、アメリカン・ミートがもたらす豊かな食の世界を表現しています。

BSE関連ニュース

●フェルナンデス米農務省動植物検疫局長のコメント(要約)

第三回日米専門家協議は、BSE問題に関し、牛肉をはじめ反芻動物由来製品の貿易の中断を最小限に押さえながら、公衆衛生及び動物衛生の保護のため、双方が国際的に受け入れられた科学知識を適用していくための枠組みを提供した。また、この二日間の協議を通して、日米専門家チームが貿易再開を促進するのに必要な技術的な同意やオプションを十分に話し合う機会を与えられた。BSE問題に関しての国際的研究やOIEを通じた国際的基準の更なる構築などを支持することを確認した。

日米専門家として協議の結果をここに報告書としてまとめた。これが牛肉貿易の再開の条件に関する日米政府協議の礎となるだろう。

●FDA、飼料原料に関する規則にパブリック・コメントを募集

食品医薬品局(FDA)は7月9日、牛の飼料原料に関する規則の作成を延期し、パブリック・コメントを募集すると発表した。

そのため米国農務省(USDA)とFDAは、以下の点について先行公示した。

- ・二次汚染予防のため、飼料とその原料の取り扱い・保管のための専門施設を指定する
- ・反芻動物用の飼料に、ほ乳類・家禽類のタンパク質を原料とすることを禁止する
- ・歩行困難牛や死亡牛に由来する原料を飼料に用いることを全面的に禁止する
- ・農場や飼料工場での二次汚染予防のため、飼料やペットフードの原料から特定部位(SRM)を排除する

またFDAは、食品(栄養補助食品や化粧品も含む)へのSRMの使用を禁止する規則を発表。これは7月14日から施行される。

※2004年7月12日 Meatingplace.com



米国食肉市場ニュース

～ 牛肉 ～

牛肉市況 (7月5日～9日)

●**週間と畜頭数**：52.9万頭。独立記念日が前年とは違う週になったため、単純に前年同週と比較するのは難しい。今週と先週の合計は118万頭で、前年の同2週比で13.7%減。

●**肥育牛の取引価格 (100ポンド [約45kg] 当たり)**：主要5市場では、平均85.17ドル (先週比1.86ドル減)。枝肉価格は平均135.37ドル (同4.66ドル減)。

●**牛肉価格**：先週からの動きは少ない。チョイスとセレクトの値段はさらに狭まり、その差は1.26ドル。歩留まり等級3 (YG3) のチョイスは139.89ドル (先週比1.15ドル減)。YG2～3のセレクトは138.63ドル (同1.06ドル減)。

オクラホマシティーの今週の取引頭数は740頭。先週は9千頭。この肥育牛市場の供給側の正確な分析は、取り引きが少ないため難しい。需要は普段通りにあったと予想される。

※2004年7月9日 Cattle Outlook (Glenn Grimes & Ron Plain)

●**牛肉需要の落ち込みが市場に影響**

鶏肉と豚肉の安値に直面して牛肉需要が下がり、生体牛の市場も低迷している。現金取引価格は、前週の87ドルからやや低下した。

これは夏の停滞だけによるものではなさそうだ。昨年秋の記録的な牛肉の卸値が3月から4月の売り上げに影響を与えていたが、その時点では肥育牛が供給薄だったために表面化していなかった。今になってそれが明らかになってきたと言える。

※2004年7月12日 Cattle Buyers Weekly

●**鶏肉と豚肉が低価格で推移**

牛肉市場全体が、昨年と同時期とは正反対に推移している。生体牛、ボックス・ビーフともに前年と比べて低価格で推移するとアナリストはみている。牛肉の小売価格でいうと、豚肉・鶏肉との価格差が前年より広がり、昨年1年で豚肉の2.6倍、鶏肉の6.3倍になった。そのため牛肉はさらに競争力が弱くなり、マーケットのシェアを失っている。フィードロットは前年より市場売買の流通が少なく、牛の在庫の増加が生じ始めている。

これは需要の低さからきていると分析する向きもある。典型的な需要過多だった昨年とは正反対である。昨年は少なかった出荷可能な牛の繰り越し数も、今年は毎月増加している。需要面では、牛肉と他の食肉との価格差が、消費者が購入を決めるカギとなっていると言う。

※2004年7月12日 Cattle Buyers Weekly

米国食肉市場ニュース

～ 豚肉 ～

豚肉市況 (7月5日～9日)

●**週間と畜頭数**：161.5万頭。今週と先週の合計は340.9万頭。前年の同2週比で4.2%増。

●**肉豚の現金取引価格**：主要市場の価格は、先週から値動きは微少で、上下50セントで推移。

●**成豚の現金取引価格**：2週前より、ややばらつき。電話取引における重量別の取引価格は40～50ポンドが90.00ドル、50～60ポンドが85.00、60～70ポンドが78.00～89.00ドル。

100ポンド (約45kg) 当たりの豚肉製品価格 (7月9日/US\$)

主要市場における100ポンド (約45kg) 当たりの最高価格 (US\$)

	7月9日
ベオリア	53.00
セントポール	53.00
スーフールズ	55.00
ミズーリ中央部	54.00

185ポンド物 (約83.5kg) の枝肉平均価格 (US\$)

	7月9日
東部トウモロコシ地帯	76.88
西部トウモロコシ地帯	76.82
アイオワ・ミネソタ	77.00
全国	76.84

製品名	価格 (先週比増減)	備考
ロイン	128.00 (+5.00)	トリム1/4インチ
ポストン・バット	96.00 (+6.00)	トリム1/4インチ
ポークベリー	—	14～16ポンド物 (約6.3～7.3kg)
ハム	72.00 (+2.64)	17～20ポンド物 (約7.7～9.1kg)

※2004年7月9日 Hog Outlook (Glenn Grimes & Ron Plain)



**セーフティー関連
ニュース**

●USDA、獣鳥肉の安全性のための覚書にサイン

ヨーロッパ諸国と取り引きされている獣鳥肉の安全性を高めるため、米国農務省 (USDA) は汎米保健機構 (PAHO) と覚書を交わした。

内容は、以下の通り:

- ・ヨーロッパ諸国での獣鳥肉と卵の安全性を高め、安全な製品の輸出入を推進する
- ・中小規模経済国の安全レベルを国際レベルまで高める
- ・類似したプログラムを減少させるため、プログラムの調整を強化する
- ・政府の食品安全局員と化学者の間の連携を進める
- ・安全プログラムの管理、科学的調査、基本水準を設定するための手段の共有や調整を促進し、共通の問題においてコンセンサスを得る

この覚書には、USDA次官のムラノ氏とPAHOのロゼス氏が署名している。

※2004年6月25日 Meatingplace.com

イベント情報

●USMEF、BSE対策セミナーを全国で開催

米国食肉輸出連合会 (USMEF) は、「米国のBSE対策最新情報／牛肉輸入再会に向けて」と題した業界向けセミナーを、6月10日に大阪、11日に東京で行った。コロラド州立大学キース・ベルク教授が、米国の安全管理システムについて講演し、米国のBSE問題への対策を報告した。USMEFスタッフからは、これまでの活動経過や今後の活動の方向性についての説明も合わせて行われた。

また、BSE関連情報をより広く確実に各地域の業界関係者にお伝えするため、同様のセミナーを6月30日の札幌を皮切りに計5カ所で開催した。

日 時	場 所	参加人数
6月10日	大 阪	140
6月11日	東 京	100
6月30日	札 幌	18
7月 1日	仙 台	28
7月 2日	名古屋	34
7月 8日	広 島	20
7月 9日	福 岡	45

★USMEFでは消費者用小冊子「知って安心 BSEのホント」を製作しました。

BSEについての「ホント」をわかりやすく解説する小冊子です。アメリカン・ビーフの安全性や飼育・加工・出荷されるまでの現地レポート、また農学博士の唐木英明氏と料理研究家の赤堀博美先生との対談などを掲載しています。下記のホームページにアクセスして必要事項をご記入いただくか、住所・氏名を明記の上、FAX (03-3523-0315) でお申し込みください。

お申し込み受け付けページ:<http://www.americanmeat.jp/cgi-bin/bsebook/index.cgi>